



＼ よろしくお願ひします。／

新任医師紹介





第一循環器内科 5/1 付
さこ こうじ
迫 恒志

患者様一人一人に対し真摯に向き合っているように日々努力していきます。



第二小児科医師 7/1 付
いしもと ちなつ
石本 千夏

この度小児科に着任いたしました石本千夏です。初期臨床研修を過ごしたこの病院で、今度は小児科医としての研修を行えること、とても嬉しく思っています。笑顔を忘れず頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。



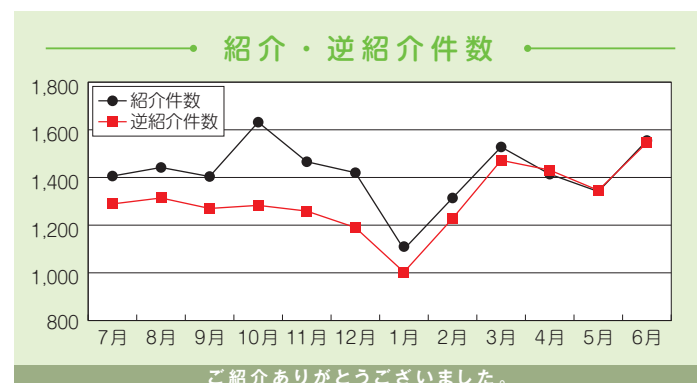
退職者

●令和5年6月30日付

第一循環器内科副部長 岩崎 洋一郎
第二小児科医師 中村 実来

お世話になりました







行事案内

第17回地域医療従事者スキルアップセミナー

10月28日(土)



是非、ご参加ください

※コロナウィルス感染状況により日程が変更となる場合がございます

松江赤十字病院 地域医療連携課
〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



松江赤十字病院 地域医療連携課

日本赤十字社

れんけいだより

vol.58
2023年8月号

精神神経科部長就任のあいさつ



精神神経科部長
石王 覚

平素より大変お世話になっております。本年度より精神神経科部長職を拝命いたしました石王覚と申します。岐阜県出身で鳥取大学卒ですが、当地が気に入り卒後も留まっています。カヤックフィッシング、スノーボードなどを趣味として、山陰の自然を満喫中です。

松江日赤に勤務するようになってからも長くなりましたが、その昔、精神科病棟廃止問題があったことをご存じでしょうか。不採算部門という理由であったようですが、みなさまのご支援を得て乗り越え、20年が経過しました。今ではメンタルケアの重要性に異論を唱える人はおらず、初期研修では精神科は必修、総合病院経営上も精神科があることが有利に働く時代となりました。

確実に時代の風は吹いているのですが、残念ながら精神科医の中では総合病院人気は低く、希望する者が少ないのが実情です。今年度は専攻医1年目の植田祐子先生との常勤2人体制のため、外来診療は縮小傾向とし、入院紹介やリエゾン精神医療を中心に活動していく方針としています。

入院治療についてですが、「総合病院」「解放病棟」というのが当科の売りになるかと思ひます。よって、身体合併症治療を必要とされる方の入院や、ストレス性障害の方の休養入院などには特に適しており、ご検討いただければ幸いです。

それからリエゾン精神医療についてですが、近年こちらに割かれる時間が非常に増えており、年間250件程度の院内紹介があります。せん妄・認知症対応や、うつ病・統合失調症の方のフォロー、ストレス反応性の不安・不眠などで関わらせていただくことが多くなっています。病院全体がより急性期医療に特化してきている現在、療養型病院や施設が退院先となるが多くなっており、次に行く環境に適応できるよう早期の精神症状コントロールが我々に求められています。誤嚥・転倒など新たな問題をつくらぬことに注意したり、転院先にもあるような薬剤を使う配慮もしたりして日々対応しているところです。

伝統ある精神神経科の良いところは大事にしつつ、時代に合わせた発展や地域医療への貢献を目指したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。





1.5T-MRI 装置

バージョンアップの紹介

放射線診断科部長 大内 泰文



地域の先生方には、いつも検査のご紹介を頂き厚く御礼申し上げます。この度当院のMRI装置をバージョンアップいたしましたのでご紹介させていただきます。

高齢化の進む現代において、MRI 検査の要望は質・量ともに増加する傾向にあります。経済協力開発機構（OECD）の調査では、日本における人口 100 万人当たりの MRI 台数は 51.7 台と世界 1 位となっています。しかし当院も含め現状では多くの医療機関で、MRI 検査の予約待ちを多数かかえています。必要とされる検査数に対し実施率が追いついていないことから、これからの MRI 装置には診断能向上につながる新たなアプリケーションの開発に加えて、今まで以上に高い生産性が求められています。そのため当院では新病院開設時より使用していた 1.5T-MRI 装置を最新の検査も可能な装置“MAGNETOM AvantoFit（シーメンス社製）”にバージョンアップいたしました。本装置は人工知能（AI）技術を応用した患者設定の簡略化や呼吸情報の自動認識によるスループットの向上、静音化の向上等による患者様に苦痛が少なく検査を受けていただける機能に加え、緊急時には車輪付の検査寝台でそのまま外に搬出できる機能も備えています。検査においては最新の高速撮像技術により、従来

撮影に時間のかかっていた MR アンギオグラフィーや MRCP も、従来機に比し向上した画質でありながら約 25-40% 程度の時間短縮が可能となりました。息止めが必要な腹部や心臓の検査では、従来よりも大幅に短い息止めでの検査が可能となり、さらに息止め困難な患者においても診断能を維持できる、心臓、腹部検査に特化した特殊なアプリケーションを搭載しましたので、今までは検査を諦めていた場合においても、是非ご相談いただけたらと思います。また関節領域の検査においては専用のコイル及び高感度の巻き付けコイルを整備しましたので 3T-MRI に匹敵する画像の取得が可能となっています。最後になりましたが、AI 技術を用いることにより、短時間に高画質でアーチファクトの少ない画像再構成が可能となるディープラーニング再構成機能（Deep Resolve）の導入も予定していますので、導入後はより精度の高い MRI 画像を提供できると考えています。

これら紹介させて頂いた内容は、当院で可能な検査の一部です。実際は全身の多岐にわたる検査をお受けできる体制を整えていますので、安心してご依頼くださいますよう引き続き宜しくお願いいたします。

ごあいさつ



地域医療連携課長 伊達山 美保

平素より当院と連携を図って下さっている医療機関・介護施設・地域のコミュニティーの皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

この度 4 月 1 日付けで地域医療連携課課長を拝命しました。

私自身は、病棟・外来・患者総合支援センター師長として患者様、ご家族に尽力してまいりました。病棟師長時代は、管理者という立場を忘れて「患者様に寄り添いたい」「ご家族の思いを聞きたい」と、スタッフと一緒に悩んだり、スタッフのように動い

たり「マネジメント」「看護過程」の重要性を認識する時間でもありました。外来師長時代は、広い視野とさまざまな知識、そして介入の必要性の判断、調整力を身につける必要性、俯瞰するなどを学びました。患者総合支援センター師長時代は、病院の内側と外側の両方に目を向けることの大切さ、地域につなげるためにはどうしたらいいのか試行錯誤の毎日でした。地域医療連携課は看護能力だけではなく多くの人を巻き込んでいくコミュニケーション能力や情報管理能力も求められているのが地域医療連携に携わる看護師の特徴だと痛感しております。今までの看護管理経験が今後の運営のヒントになればと思っております。

当地域医療連携課は、「顔の見える連携」を掲げ一人一人が丁寧な対応を心掛け毎日取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症は、人と人のつながりを分断させるほどの勢いでしたが、院内一人一人の職員が工夫と努力を重ねそしてつながることによって一層強い絆が生まれたと感じています。そして、当院の救急外来受け入れ制限、電子カルテシステム最新に伴う診療休止など、急性期病院としての機能が低下してしまった時、地域の医療機関の皆様に助けていただきました。地域全体がつながり助け合うことができる地域だと感銘いたしました。

今後もひとつひとつの連携を大切にしながら皆様とつながっていかれたらと思っております。なによりも患者さんのために今後も医療連携をスムーズに運べるよう地域医療連携課スタッフ一同励んでまいりますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

